

『帝国主義』論に学ぶ

第5回

東京ブロック

独占の成立、金融資本との融合・癒着

司会：今月からいよいよ本書に入ります。第一章「生産の集積と独占」、第二章「銀行とその新しい役割」、第三章「金融資本と金融寡頭制」まで行います。レポートは、田口勝義東京西部県協事務局長です。

レポート報告と討論は二つずつ行います。田口さん、まず第一章からお願います。

第一章 生産の集積と独占

田口：レーニンの『帝国主義』論の特徵は、自由競争から巨大企業が誕生し、ここに生産が集中していったという歴

史的事実から帝国主義を説き起こしていることです。帝国主義の基礎は独占であり、そしてこの独占は、生産力の発展がもたらした生産と資本の集積の必然的帰結であると、レーニンは見たのです。

特別剰余価値をめぐる企業間競争

独占は、生産と資本の集積から生まれ、そしてその基礎には生産力の発展があります。資本主義における生産力の発展は、「特別剰余価値」をめぐる企業間の競争を通して実現されます。資本主義では、どの企業も新しい機

械や生産方法をいち早く導入し、生産コストを削減しようと競争します。同業他社に先んじてコストを削減し、これを市場価格で売ることができれば、その企業は、特別に大きなもうけ（特別剰余価値）を得ることができからずです。

それも束の間、すぐにライバル企業が追いつき、どこも新しい機械や生産方法を採用するようになります。そうすると特別剰余価値はなくなりますが、このコスト削減競争を通して商品（生活手段）の価値が下がり、これに規定される労働力の価値が下がります。労働時間が変わらなるとすれば、資本金

◆みんなの学習講座

が手にする剰余価値（相対的剰余価値）が増えるのです。この競争は、労働者を犠牲にした合理化競争に他ならないのですが、これこそが資本主義における生産力発展の原動力であり、資本主義の歴史的存在意義なのです。

競争を制限し独占価格と利潤の実現

独占資本は、カルテルやトラストを結成することで競争を制限し、独占価格と独占利潤を実現しようとしていますが、特別剰余価値の場合と違い、これには生産力の発展に貢献したという裏づけがありません。独占利潤は、非独占企業や非独占部門が生産した価値の横取りにすぎないのです。レーニンは、これが長く続けば資本主義は活力を失い、「停滞と腐朽化への傾向」（161頁）が生み出されると指摘しています。資本主義が衰退すれば、この土壌の上に生息する独占資本も生きていきません。

独占を守るために合理化競争を止めさせない、ここに独占禁止政策の目的があり、これを「経済の健全な発達」と表現しているのです。

もつげは労働者がつくりだしたもの

司会：ポイントを整理し、報告されました。質問はありますか。

檜崎：資本主義における生産力の発展は、「特別剰余価値」をめぐる企業間の競争を通して実現されます、と報告されました。いきなり「特別剰余価値」と言われてもネ、「相対的剰余価値」も含めて詳しく説明してください。

高井：四国の仲間が『賃銀・価格および利潤』を学ぶで、労働者の賃金と何か、資本のもつげはどこから生まれるかなど15回（21年1月〜22年3月号まで）連載で述べています。それも参照してください。

ある工場で、最初1000万円の資

本が投じられました。その内500万円は、建物、機械、原料などの生産手段（不変資本）に投じられました。生産手段はその価値を新製品にそのまま移すだけで、そこからもうけは生じません。

労働力（可変資本）に投じられた500万円はこれと違い、労働者に支払われた価値よりも多い価値、すなわち1000万円もの価値をつくりだしました。その1000万円の内、賃金として支払われた500万円を越すものは剰余価値といえます。

特定企業が生産性を上げて、

特別な剰余価値を得る

ある企業で労働の生産性が2倍になったとしよう。労働者一人あたり、一日10時間で今まで10個の生産物をつくっていたのが、今度は20個の生産物をつくるようになった。

いま労働者が10時間働いて付け加える価値を1000円とすれば、生産物1個あたり100円であったものが、今度は50円に下がったことになりました。

ところが商品の価値は、個々の企業ごとに決まるのでなく、社会的に決まります。すなわち、例外的に生産性の高い企業の個別的な価値でなく、大多数の平均的な価値(社会的価値)によ

【図1】労働者の生活手段を生産する部門で生産性が向上し、労働力の価値が下がる。

(I) 労働時間10時間

必要労働5時間	剰余労働5時間
---------	---------

$$\text{剰余価値率} = 5 \div 5 \times 100 = 100\%$$

(II) 労働時間10時間

必要労働4時間	剰余労働6時間
---------	---------

$$\text{剰余価値率} = 6 \div 4 \times 100 = 150\%$$

* 必要労働時間が短くなり、剰余労働時間が長くなる

つて決まります。大多数の企業がもとのままの生産性なら、以前通りの100円で売られ、一個に付き50円、余分な剰余価値がもたらされます。

これを特別剰余価値といいます。だから、どの企業(資本)も優秀な機械(生産手段)を導入し、生産性向上をめざします。ゆえに、どの企業(資本)も絶えずこの特別剰余価値を求めて、たゆまない合理化競争が起こります。

生産性向上で必要労働時間が短縮
相対的剰余価値が生まれる

新しい技術がその生産部門にゆきわたると、特別剰余価値はさえます。しかし、その生産部門の社会的価値は下がります。こうした価値低下が、労働者の生活手段を生産する部門で起こると(労働力の価値は労働者の生活手段の価値で決まるから)労働力の価値が

それだけ下がります。

例えば、食料や衣料を生産する部門で生産性が上がり、食料や衣料の価値が下がります。今まで500円だったものが400円になりました。労働力の価値とひとしい必要労働時間が短くなります。【図1】が示すように、必要労働時間が短くなることによって、もたらされる剰余価値を相対的剰余価値といいます。

司会…ありがとうございます。資本のもうけを増やすために、資本主義的合理化競争が続きます。ゆくゆくは、労働力商品の価値が低下し、ますます労働者の搾取が強化されます。

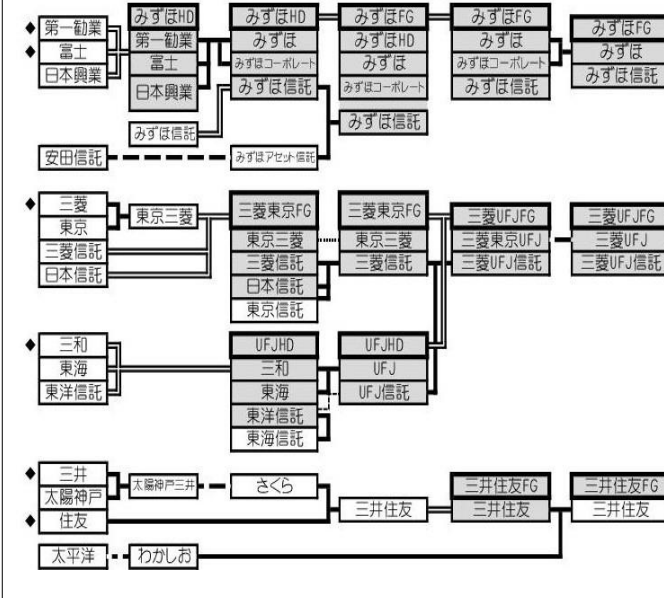
次は、銀行の役割の変化です。

第二章 銀行とその新しい役割

田口…銀行は資本の集積、独占の形成にとって決定的な役割を果たします。銀行の本来的業務は、第一は「支払い

◆ みんなの学習講座

【日本における銀行の吸収合併、遍歴】



の仲介」であり、第二は商工業企業の「遊休貨幣資本を機能資本（利潤を生む資本＝産業資本や商業資本）に転化する」こと、第三は「ありとあらゆる

貨幣収入をかきあつめて資本家階級の処分によだねる」ことと、レーニンは説明します。このように銀行はもともと国民の資

金と産業資本とをつなぐ仲介者であつたのが、銀行の集積、集中がすすみ巨大化するにつれて、産業を支配する全能の独占者（51頁）となります。レーニンは、ドイツ・ベルリン、フランス、アメリカでも同様で、全資本主義経済の先頭を走る少数の銀行は、独占的協定を結び、銀行トラストをつくり、産業資本を支配し、

その集中合併独占化をすすめます。ここの説明は、銀行資本と産業資本の「癒着」というよりは、ドイツの現状から、独占大銀行の産業資本支配により独占化が進んでいるという説明です。

戦後の日本は、旧財閥系が復活

第二次世界大戦後の日本では、三井、三菱、住友、富士（芙蓉グループ）、三和、第一勧業（二勧）、の6大銀行（1990年代のバブル崩壊後に、経営統合をはかり、3大メガバンク「三菱UFJ」「三井住友」「みずほ」に集約される）を頂点に企業集団が形成され、新日鐵（現在の日本製鉄）、日立トヨタ自動車など独立系企業グループとともに絶大な力をふるいました。独占大銀行の力の源泉は、社会全体から遊休貨幣資本をかき集め、それを各産業、企業に配分することにあります。銀行がグループ企業に優先的に

資金を提供する「系列融資」が、さまざまな産業・業種の企業を自行の影響下につなぎとめる有力な手段となりました。グループ外であっても優良企業なら、集中的な融資によって積極的にグループに取り込みました。

こうして独占大銀行は、産業に対する影響力を拡大したのですが、これを可能にしたのは産業界の旺盛な資金需要でした。

産業を支配する全能の独占者に

司会…もともと国民の資金と産業資本とをつなぐ仲介者であった銀行が、銀行の集積、集中がすすむにつれ、産業を支配する全能の独占者に変化するということです。

千葉…本来的業務の内、「遊休貨幣資本を機能資本に転化する」とあります。が、私たちの「タンス貯金」などは「遊休貨幣資本」ですか。

福田…「タンス貯金」は、資本とは言わず資金と表現するのが妥当と思う。

ここでいう「遊休貨幣資本」とは、個別資本が利潤拡大のために本来ならば拡大再生産過程に入るが、自社の設備投資などに入れずに一時休止している貨幣資本のことだと思います。これらを銀行が集めて、大きな産業資本に貸し付けて産業の集積と集中を繰り返してきたということでしょう。

司会…はい、タンス貯金は資金であつて資本ではありません。資本とは、「特定の物象形態に固定されるものではなく（時には貨幣、時には商品として）、剰余価値を生んで無限に自己増殖する運動体である」と、坂牛教室で何度も教わりました。

第三章 金融資本と金融寡頭制

田口…ヒルファディングは、後発資本主義国のドイツが、遊休貨幣と貨幣資

本の大銀行への集積、そしてその産業資本への転化を通じて重化学工業化を推し進め、イギリスをしのぐ勢いで急速な発展を遂げたのを目の当たりにして、この原動力となった資本を「金融資本」と名づけました。

ドイツ経済の高成長の背景には、時代を画する技術革新がありました。

レーニンは「生産の集積、そこから発生する独占、銀行と産業との融合史あるいは癒着—これが金融資本の発生史であり、金融資本の概念の内容である」（78頁）と、金融資本を規定しました。

特権的な少数者による多数者の支配が寡頭制であり、金融寡頭制は、貨幣資本と貨幣収入の大部分を手にする独占大銀行による政治・経済支配です。

金融寡頭制のもう一つの手段は、金融機関と産業企業、さらには政治や行政をつなぐ人的結合です。

人的結合の基本は、第二章で述べら

◆みんなの学習講座

【華麗なるトヨタグループ族】

豊田章男(とよたあきお)は1956年5月生まれで、テレビCMにも登場するトヨタ自動車(株)の代表取締役社長です。曾祖父の豊田佐吉がトヨタループの創始者です。祖父の豊田喜一郎がトヨタ自動車の創業者で、父の豊田章一郎はトヨタ自動車の初代社長です。叔父の豊田達郎は、学校法人豊田学園の2代目理事長と、父方の家系図だけでもすごい肩書が並びます。

豊田章男の母・博子は元三井銀行取締役・三井高長の娘で、三井高長は三井財閥一族の伊皿子家8代目にあたります。父方だけでなく、母方にも華麗なる家系図が広がる豊田章男。母方の曾祖父・三井高平は、三井家初代当主ですし、三井家の家系図を辿れば、NHK朝ドラ「あさが来た」主人公のモデルである広岡朝子の名前も出てくるほど。その他にも三井物産や三井鉱山社長など凄い肩書きが並び、

52歳でトヨタ自動車(株)の社長に就任。豊田章男の年収は3億5200万円で、他の国内自動車メーカー社長の年収と比較しても日本トップクラスです。

銀行に補助金を与える権限を持つ「信用局長」の大銀行への就職(97頁)をあげています。こうして「少数者の手に集積されて事実上の独占を享有している金融資本は、会社設立、有価証券の発行、国債の引受等々によって、巨額の、しかもますます増大する利潤を獲得し、こうして金融寡頭制の支配を強化し、

れた銀行独占と産業独占の間の取締役や監査役の相互派遣ですが、さらにこの派生形態としてレーニンは「金融寡頭制が：新聞をも政府をも支配している」(91頁、フランスのジャーナリス

ト、リーシの著作) フランスの例、ドイツでは、土地開発の許認可をめぐる「ベルリン警察や行政官庁との詐欺的な結託」(94頁)や「現職官吏の銀行への転職」(96頁)、ロシアについて

全社会に対して独占者への貢物を課す(89頁) ことになるのです。

トヨタは税金を払ってなかった

司会：はい、ありがとうございます。

豊田章男氏が社長に就任した2009年度〜14年度まで5年間も法人税をトヨタ自動車(株)は払っていませんでした。リーマンショック後、一時的に営業利益は赤字でしたが、経常利益は黒字です。だが、「外国子会社からの受取配当の益金不算入」という制度を導入しました。自民党への政治献金の第一位が日本自動車工業会、第二位がトヨタです。まさに、政治との癒着の一例です。

司会：次回は、第四章〜第六章まで東京南部真協の秦康博副会長がレポートし学び合います。